

我孫子市民図書館 秋のたより



発行 我孫子市民図書館
〒270-1147 我孫子市若松26の4
電話 04-7184-1110

走れ！！ 移動図書館そよかせ号



1978年8月、移動図書館「そよかせ号」は誕生しました。

暑い日も、寒い日も、楽しみに待っていてくださる利用者みなさまのおかげで、市内の公園だけでなく、学校などにも巡回するようになりました。今の車両でなんと4代目！

ここでは、令和4年4月から新しく増えたステーションをご紹介します。

市内2か所の保育園の駐車場にステーションを設置。通園している子どもたちは移動図書館のバスに乗れるだけでも大喜びで、毎回たくさんの貸出があります。もちろん地域の方もご利用いただけます。子育て支援センターのひろばが併設されているので、小さい子連れの保護者の方も周りを気にせず利用できるご好評いただいています。

- 布佐宝保育園ステーション 原則第2、4水曜 10：40～11：20
- 川村保育園ステーション 原則第2、4木曜 11：00～11：40

利用案内

- * 我孫子市民図書館の利用カードがあれば、だれでも無料で借りることができます。
- * 詳しい巡回日程はホームページをご覧ください。天候の悪いときは中止となる場合があります。



水の館
ステーション

- 水の館ステーション 原則第1、3木曜 14：20～15：00

手賀沼のうなぎさんが描かれた空色のバスを見かけたり、巡回をお知らせする「ドレミの歌」が聴こえたら、ぜひご利用ください！

たんた新聞

号外

たんた新聞編集部
〒270-1147
我孫子市若松26-4
我孫子市民図書館
TEL:04-7184-1110



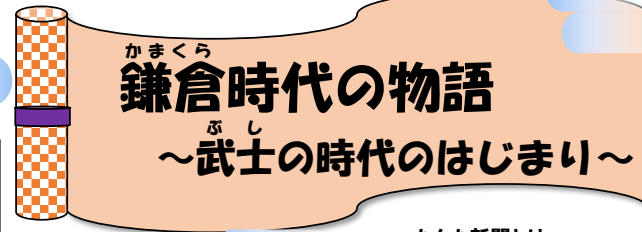
「源平の風 白狐魔記[1]」
斉藤 洋/作 高島 純/画
偕成社（1-サ）

人間のことを知りたいと思い、里の近くでござ変わり者のきつねがいました。ある時、きつねは白駒山という山に住む仙人と出会い、修行をつんで人間に化けられるようになります。旅を再開したきつねは、かつて自分を救ってくれた武士、源義経の一行に出会うのでした。



「鬼のうで」
赤羽 末吉/文と絵
偕成社（EAア）

むかし、源頼光という侍が、都で悪さをする鬼を退治しようとしていました。頼光の家来の渡辺綱は、にぎりつがされそうになりますが、鬼の腕を切りはらいます。腕を取り戻そうとする鬼との知恵くらべのお話。



「風神秘抄」
萩原 親子/作
徳間書店（1-オ）

坂東武者の青年、草十郎は、平治の乱に敗れ、鎌倉に逃れようとしていた。これからどう生きるか考えていた矢先、落ち武者狩りにあい、とっさに幼い頼朝をかばって深手を負う。後に残ったのは笛の才能だけだった。ところが、「修行中の神」と名乗るカラスの鳥彦王や、不思議な力を持つ舞姫と出会い、草十郎の運命が動き出す。

たんた新聞とは...

子ども向けに発行している図書館の新聞です。
今回、「秋のたより」の合併号として、
子どもの本から鎌倉時代の物語を紹介します。



「かえるの平家ものがたり」

日野 十成/文
斎藤 隆夫/絵
福音館書店（EAサ）

げんじぬまの夏の朝、かえるの子どもたちが遊んでいると、がまじいさんがお話をしてくれます。むかしむかし、ぬまで起こった一大事に立ち向かい、力をあわせ、知恵を出し合ったげんじがえるたちの物語。聞いた後はみんなでおひるね。楽しい絵が、げんじぬまに連れていってくれます。

「源平絵巻物語 第1巻 牛若丸」
赤羽 末吉/絵
今西 祐行/文
偕成社（EAア）



「絵巻平家物語 7 義経」

木下 順二/文 瀬川 康男/絵 ほるぷ出版（EAセ）



源平の戦いで華々しい活躍をした源義経の生涯を描いた絵巻風の絵本。8歳で京都の鞍馬寺に預けられた義経。兄・頼朝の拳兵を聞き、弁慶らと共につけていきます。数々の名場面が美しい絵で描かれ、短くもひたむきに生きた義経の一生をいりどります。

「源頼朝

徹底大研究日本の歴史人物シリーズ 3」
河野 美智子ほか/文
ポプラ社（289-ミ）



鎌倉殿 と その時代

1180年の挙兵後、世に有名な源平合戦を制した源頼朝は、征夷大将軍となり鎌倉幕府を開いた。日本初の本格的な武家政権の誕生であった。頼朝の安房上陸、坂東武者の活躍、鎌倉街道等々、千葉県にもゆかりがあり、数多くの物語が生まれた時代を本とともに見つめる。

『つわもの賦』 永井 路子/著
文藝春秋

『鎌倉幕府の謎』 跡部 蛮/著 ビジネス社



『図説 鎌倉幕府』
田中 大喜/編著 戎光祥出版



『炎環』 永井 路子/著
文藝春秋
源頼朝の挙兵にはじまる鎌倉武士たちの興亡を物語る。異母弟の全成法師を描く「悪禪師」、その妻保子を中心に北条政子の妹たちを描く「いもうと」など4つの話が収められている。

『源頼朝』 川合 康/著
ミネルヴェ書房

『夢將軍 頼朝』
三田 誠広/著 集英社

『修羅の都』
伊東 潤/著 文藝春秋

『頼朝と街道』 木村 茂光/著
吉川弘文館

源実朝



『実朝の首』 葉室 麟/著 KADOKAWA

源実朝は鶴岡八幡宮での右大臣拝賀の式典の最中、首を斬り落とされた。持ち去られた首を巡り、さらなる争いは続き…

源頼朝

奥州に身を寄せる義経、流人として伊豆の北条氏の館に居る頼朝。都から平家討伐の令旨が届き、兄弟の運命は動き始める。やがて対立することになる兄弟の相克を描く。



『天馬、翔ける』上・下
安部 龍太郎/著 新潮社



源義経

『義経』上・下
司馬 遼太郎/著 文藝春秋

藤原家が権力の座から転落し、平家や源氏といった武士が台頭する世へと変貌。平家が天下を掌握し、負けた源氏は悉く滅ぼされる。しかし、歴史の舞台から消えるはずだった義経は、平清盛の一言で生かされ、数奇な運命を辿ることに。源氏の家に生まれながら、兄に疎まれ最後に非業の死を遂げ、数多くの作品に描かれる義経だが、兄頼朝、生母の常盤、従者となった武蔵坊弁慶など多彩な顔触れを生き活きと描く著者の作品は秀逸。

『義経と源平合戦を旅する』 産業編集センター

『言の葉は、残りて』 佐藤 雫/著 集英社

『女人入眼』 永井 紗耶子/著
中央公論新社

北条政子

『史伝北条政子 鎌倉幕府を導いた尼將軍』
山本 みなみ/著 NHK出版

源頼朝の正妻であり、夫亡き後は鎌倉幕府の実権を握っていたとされる北条政子。頼朝との婚姻から鎌倉幕府の設立、三代將軍と執権北条氏、承久の乱を経て幕府の優位を確立。本書は淡々と歴史的事件を描くが、その上で、政子の子頼家・実朝を本当の意味で殺したのは誰か？三代執権泰時の親は誰なのか？史実に残されていない謎が、著者の手によって劇的に解き明かされていく。



『尼將軍』
三田 誠広/著
作品社

『鎌倉北条氏の女性たち』
今井 雅晴/著 教育評論社

鎌倉幕府成立以後150年にわたり執権政治を行った北条一族に生まれた女性、また嫁いできた女性に注目し、17人を取り上げる。尼將軍として活躍した頼朝の妻政子、その孫竹御所頼子など。鎌倉幕府最後の執権守時の妹登子は足利尊氏の妻となる。女性たちの生き様を知ることで時代をみる。



『鎌倉北条一族』 奥富 敬之/著 新人物往来社

頼子は二代將軍頼家と刈藻の娘として誕生。頼家が討たれ、実朝が將軍に就くと、竹林に囲まれた屋敷でひっそりと暮らし美しく成長する。異母兄弟たちが攻めで次々に命を落とす中、刈藻は娘の幸せを強く願うが、やがて、尼御台政子と執権義時によって悲劇の運命へと導かれていく。権力に逆らえないと知りながら、命がけで頼子を守ろうとする母。実朝亡き後、源氏の正嫡が絶える、鎌倉幕府の終焉を描く歴史小説。



『竹ノ御所頼子』
杉本 苑子/著
中央公論新社

北条義時



『小説集 北条義時』
作品社

『史伝北条義時』
山本 みなみ/著 小学館
義時は時政の二男として伊豆国田方郡北条（静岡県伊豆の国市）に生まれ育つ。頼朝と姉政子の結婚を機に目をかけられるようになり、頼朝に協力していく。

本書では、『吾妻鏡』以外に『明月記』『愚管抄』などの史料も用いて新しい解釈を展開、客観的に義時を評価。執権として、いかに権力掌握に成功したのかを解明する。



坂東武者たち



『千葉常胤とその子どもたち』
千葉氏入門ブックレット 1
千葉氏顕彰会/編 啓文社書房

『上総広常』
千野原 靖方/著
戎光祥出版

『九条兼実』
樋口 健太郎/著
戎光祥出版

『畠山重忠』
貫 達人/著
吉川弘文館

『都鄙大乱』 高橋 昌明/著
岩波書店

古典・千葉の歴史にみる鎌倉殿

書名	著者	出版社
平家物語(日本文学全集 09)	池澤夏樹/個人編集	河出書房新社
現代語訳 吾妻鏡(1~16巻、別巻)	五味文彦・本郷和人/編	吉川弘文館
義経記(物語の舞台を歩く)	五味文彦/著	山川出版社
金槐和歌集(新編日本古典文学全集49)		小学館

千葉県の歴史 通史編中世	千葉県史料研究財団/編集	千葉県
千葉県の歴史一〇〇話	川名登/編著	国書刊行会
あなたの知らない千葉県の歴史	山本博文/監修	洋泉社
地図で楽しむ本当にすごい千葉	都道府県研究会/著	宝島社
房総の頼朝伝説	笹生浩樹/著	冬花社
頼朝起つ ~鎌倉殿と坂東武者たち~		菱川師宣記念館
千葉常胤と13人の御家人たち 南関東編		千葉県立郷土博物館